

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成22年4月14日

財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 辻 井 昭 雄 様

京 都 大 学 総 長

松 本 紘

事業区分	平成21年度・大学全体計画事業助成			
事業名	京都大学国際シンポジウム			
成果の概要	「成果の概要」以外に添付する資料 無 有()			
会計報告	事業に要した経費総額	7,380,000 円		
	うち当財団からの助成額	5,200,000 円		
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称)	京都大学 大学運営費	
	経費の内訳と助成金の使途について			
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)	
	国外旅費	2,150,000	1,620,000	
	国内旅費	600,000	0	
	会議費	2,850,000	2,450,000	
	印刷費	1,460,000	1,130,000	
	その他	320,000	0	
合 計	7,380,000	5,200,000		

成 果 の 概 要

京都大学総長 松本 紘

【京都大学国際シンポジウム】

京都大学では、世界に開かれた大学として先端的な学術研究を積極的に展開していくため、平成12年度より毎年、本学が誇る独創的な学術研究を対象とする国際シンポジウムを海外で開催しています。平成21年度は、京都において国際シンポジウムを開催しましたので、ここに報告します。

第13回京都大学国際シンポジウム

12月11日(金)から13日(日)にかけて、京都大学時計台記念館百周年記念ホールにおいて、「第13回京都大学国際シンポジウム：学術研究における映像実践の最前線」を開催しました。京都大学国際シンポジウムは、本学が誇る独創的な学術研究を世界に語りかけ、国際的に開かれた大学としての活動を積極的に展開していくために、平成12年度以来毎年、世界各地で開催しているもので、今回のシンポジウムは、京都大学教育研究振興財団の後援を得て、三日間で延べ約420人の参加がありました。内外の研究者や学生のみならず学界外からも多数の方々が集まり、大きな盛り上がりを見せました。

シンポジウム1日目は、本学 松本 紘総長の挨拶で開幕。映像上映による挨拶でしたが、奇しくも、本シンポジウムのテーマに沿ったかたちとなりました。続いて、本シンポジウム実行委員長の地域研究統合情報センター 田中耕司教授から、趣旨説明の後、学術情報メディアセンター 土佐尚子教授によるオープニング上映が行われました。

その後セッション「海洋生物がみせる海」、セッション「脳科学と映像」、セッション「宇宙物理学と映像」が行われました。

同日夕、国際交流ホールでのレセプションは、吉川理事の挨拶、西村理事の乾杯でスタート。今回のシンポジウムでの発表者の専門分野は幅が広く、普段お互いに顔を合わすことのない研究者同士の親交の場となりました。

2日目は、セッション「映像がとらえる野生動物」、セッション「映像メディアとエスノグラフィー」、セッション「映像メディアとアクティヴィズム」が行われました。

3日目は、セッション「ヴィジュアル・イメージと社会 - 親密圏と公共圏の再編成に向けて - 」、セッション「ヴィジュアル・イメージと物語」、セッション「カルチュラル・コンピューティング - 文化・無意識・ソフトウェアの創造力」が行われた後、まとめとして田中教授の総司会でセッション担当者や若

手研究者を交えた総合討論が行われました。活発な意見交換が展開され、熱気のうちに幕を閉じました。

学術研究における映像にかかわる実践に注目した、今回のこのような分野横断的な学際シンポジウムは、世界的にも類をみないものでした。今後、映像を通じた新たな学術領域の開拓の第一歩となることが期待されるところです。

当事業を推進するにあたり、貴財団より多額の助成をいただきましたことに対し、深く感謝するとともに、篤く御礼申し上げます。